
木津川アートの継続開催に向けた考え方

～木津川アートプロジェクト検証委員会における検証と検討を踏まえて～

市では、平成22年から過去3回の開催を経て、市の内外を問わず広く認知され始め、継続開催を望む声が増えている『木津川アート』を今後も継続開催するため、市としての考え方を整理することにしました。

そこで、市が木津川アートの継続開催に向けた考え方や運営の方法などを定める際の参考とするため、平成24年12月に木津川アートに参画いただいた市民の皆さんで構成する『木津川アート検証委員会』を設置して、計4回の委員会を通して様々なテーマについて検証と検討を行いました。

今回、この木津川アートプロジェクト検証委員会での検討を受け、市の考え方をまとめましたので報告いたします。

木津川アートの継続開催に向けた市の考え方

市は、木津川アートプロジェクト検証委員会の検討成果を参考に、今後も木津川アートを継続して開催するための考え方を次のように決めました。

(1) 木津川アートとは（定義）

木津川アートプロジェクトは、市を実施主体とする『市の総合計画に合致する施策の一つとして、木津川市の魅力発見、魅力発信であり、交流と市民協働による地域活力を活かしたまちづくりの取組』であり、次の5つの要素からなる、『市に由来からある魅力と現代アートの魅力による相乗効果によって創り出される新たな魅力の発信』そして、『市民協働や地域づくりの取組を通じて市民が市の魅力を再認識する機会』と位置付けます。

§ 木津川アート（プロジェクト）の要素

- ①木津川市の魅力（地域、建築物・景観・環境など）
- ②現代アート作品（作家）
- ③市民ボランティア（一般市民、関係団体など）
- ④キュレーター（プロデューサー、コーディネーターなど）
- ⑤実行委員会（市、観光協会、プロジェクトチームなど）

(2) 開催計画に関すること

☆1回の木津川アートの事業期間は、準備期間等を含め約20か月程度とする。

☆木津川アートの企画内容、開催時期、開催場所等を含む事業内容は、市と木津川アートプロジェクト（木津川アート実行委員会）において決定する。

(3) 運営体制（運営組織）に関すること

☆木津川アートの運営主体は、市の決定に基づき、市、観光協会並びにプロデューサー等で組織する「木津川アートプロジェクト」を核とした『木津川アートプロジェクトチーム』とする。

(4) ボランティア、スタッフに関すること

☆市民ボランティアやスタッフの確保や継続的な参画は、木津川アートの運営並びに運営組織に不可欠であることから、最重要課題として取り組む。

☆新たなボランティア確保の手段として「仮称」木津川アート応援団（サポーター）を立ち上げる。

(5) 事業運営に関すること

☆宣伝・PRに関する取組を工夫する。

☆トラブル抑制に向けた取組を進める。

☆まちづくりと地域活性化に関する取組を進める。

☆展示施設の管理、運営に関する支援や取組を強化する。

☆魅力ある木津川アートへの取組を強化する。

①作家の創作活動、参加に必要な経費の助成

②展示作品の活用（購入など）の検討

☆事業費（予算）について

木津川アートの継続開催を前提に、準備や総括を含めた木津川アートの開催に必要な運営費を加え、次の項目を予算計画に含めていく。

◆芸術祭の視点から参加作家の募集・審査に要する経費の充実

◆展示会場の確保と使用等に要する費用の充実

◆参加作家の製作・作品運搬等に関する経費の確保

◆企画・運営面におけるスタッフの確保と充実、ボランティア募集と登録など人材の確保に要する経費の拡充

◆実際の事業推進に係る宣伝・企画に関する経費の充実

◆国や府の補助金の活用

◆民間からの協力金等による自己資金の調達方法の検討

(6) 木津川アートの魅力づくりに関すること

①過去に実施したアンケートや反省会で木津川アートの魅力は、『他の芸術祭には無い【緩さや遊び心】』にあると評価されている。

この評価を他の芸術祭との差別化と木津川アートの特色を一層明確にするためのキーワードと位置付け、木津川アートの規模や目的に相応しい形を追求する。

②木津川アート事業の実施目的は、単に芸術祭の開催ではなく、木津川アートの魅力を通じて生じる様々な効果の発現と獲得であり、これは、木津川アートの本質と定義に深く関わるものである。

このことから、今後も引き続き市民参加と市民協働の機会を幅広く設け、多くの関係者が継続して「まちづくり」としての木津川アートに参加しやすい仕組みづくりを進める。